

# 令和3年度 学位記授与式 式辞



本日、学部を卒業し学士の学位を得た 931 名、大学院博士前期課程及び修士課程及び専門職学位課程を修了し、修士及び教職修士の学位を得た 192 名、大学院博士後期課程を修了し、博士の学位を得た 6 名の皆さん、学位取得おめでとうございます。本日、本学から皆さんを卒業生、修了生として送り出せることを、ご臨席を賜りましたご来賓の皆さまと列席しております理事・副学長、学部長、そして本学教職員とともに、心よりお祝いたします。ご多用のところ、卒業生の門出となるこの式にご臨席を賜りました和歌山県知事 仁坂吉伸様、和歌山市長 尾花正啓様、本学同窓会会長 西川昌克様には、衷心より御礼申し上げます。

一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会に、そして皆さんの学業にも大きな影響を与えました。大学内での感染症の拡大を防ぐために、キャンパスへの立ち入りを制限し、インターネットを活用した遠隔授業に切り替えて行った授業も多数あります。また、課外活動にも大きな制限が加わりました。このようなかつて無い環境の中で、皆さんは見事に和歌山大学での学業を達成され、学位を得られました。皆さんのその努力と成果を讃えます。これから皆さんは、社会へ、そしてさらに深い学びを求めて大学院へ、と進むことになります。本学での学びで培った知識、技能、そして友人たちとの関係を、新しい場での活躍に生かしてください。

現在、我々は、これまでの価値観が変わっていくパラダイムシフトの場に、当事者として直面しています。このパラダイムシフトは、グローバル化、AIの台頭、SNSによる個人の情報発信拡大、そして地球規模の気候変動など多くの社会現象がここ 10 年程度の短い時間の中で、それぞれの領域や分野を超えて融合する、クロスオーバーによって惹起されたものです。これらに加えて、新型コ



新型コロナウイルス感染症のパンデミックへの対応により、さらに急激な社会変化となりました。パラダイムシフトの渦中では、新しい社会秩序や仕組みを生み出す試みがなされ、それらの



発展と淘汰が繰り返されます。このため、社会は不安定となり、「先が見えない」と言われる状態が発生します。また、禍福は糾える縄の如しという言葉が表すように、幸と災いが共存する状態となります。これまでの安定した社会を顧みれば、不安が嵩むことは仕方がありません。しかし、捉え方を変えれば、新しい挑戦の

機会が提供される時代でもあります。その機会を掴むことによって、明るい将来に向けて挑戦する意志を持つことができると考えます。

このような複雑かつ不安定な状態は、我々の住む社会が、様々な要素が相互作用して作られた複雑系であることを示しています。物理学のカオス理論では、複雑なシステムは最初の状態からの微妙なずれにより大きく異なる結果に至ることがわかっています。気象学者のエドワード・ローレンツは、ある会議で複雑系におけるわずかな状態のゆらぎが系に大きな変動を引き起こすことについて、寓話的に、”Dose the Flap of a Butterfly’s Wings in Brazil Set Off a Tornado in Texas?”（ブラジルでの一匹の蝶の羽ばたきは、テキサスで竜巻を起すか？）と題した講演を行いました。この講演にちなんで、ゆらぎが系に大きな変化を与える現象をバタフライ効果と呼ぶようになりました。先に述べましたように、我々の社会は、人と人、集団と集団の意志と行動が複雑に絡み合って作られた複雑系です。したがって、社会においてもバタフライ効果は存在します。GAF A と呼ばれる現在の巨大企業が、個人のあるいは数人のグループが起こした既存のパラダイムから外れた発想と行動から発展していったことは既知の事実です。この例にあるように、ぜひ、皆さんも、その若い発想力と実行力を持って、新しい試みを始めてみてください。

しかしながら、複雑系において全てのゆらぎが必ずしも系の大きな変化に発展するわけではありません。増強効果を得て系全体に影響を与えるほどに成長したゆらぎが生き残ることになります。社会においてゆらぎを成長させる役割を果たすのが、理解者の獲得です。そのためには、皆さんを取り巻く人たちとの対話が必要です。自己の考



えの一方的な主張ではなく、相手を尊重し、理解することの上に議論をすることが対話です。その対話により、信頼が築かれます。信頼で結ばれた仲間を増やしていくことで、皆さんの行動が社会的に認知され、成長していくことになります。

歴史や現状の認識の違いにより、対話は容易に断裂してしまいます。今なお、感染が広がっている新型コロナウイルス感染症がもたらした、従来の人と人とのコミュニケーションの変容も、対話あるいはより広いコミュニケーションの断裂を深め、社会不安を高めてしまっていると言っているでしょう。対話の断裂は社会に様々な軋轢を生じさせます。その軋轢が増強された悲劇の一つが、現在、ウクライナで生じている戦火でしょう。この現状を認識し、対話を回復させ、積極的に将来を創り上げていくことが、我々には求められています。このような時代にこそ、発想力、主体的な実行力と他者の信頼を得る対話力が求められます。私は、皆さんが過ごされた和歌山大学における学びが、この新しい時代で求められる力を生み出す糧となっていることを確信しています。挑戦が可能なこの時代に、皆さんが、新しいゆらぎを生み出し、そして増大させるよう活躍されることを祈念いたしまして、式辞といたします。



令和4年3月25日  
和歌山大学 第17代学長  
伊東 千尋